

(2) 生涯学習

生涯学習分野については、平成28年度から「第5次千葉市生涯学習推進計画」に基づき各種施策を進めています。

千葉市生涯学習推進計画の目標

市民が自ら学んだ成果を生かし、
活力あるコミュニティを形成できる環境づくりを進める
～学びを通して地域がつながるまち 千葉市～

「成果指標」における「達成状況」の記載について

各指標について、H30 末(中間)目標値に向けた H28 末現状値の状況を4段階に分類します。

区分	説明（成果指標の達成状況基準）
◎	H28 末現状値が H30 末(中間)目標値以上
○	「H28 末現状値と H27 末現状値の差」が「H30 末(中間)目標値と H27 末現状値の差」に対し60%以上
△	「H28 末現状値と H27 末現状値の差」が「H30 末(中間)目標値と H27 末現状値の差」に対し60%未満
×	H28 末現状値が H27 末現状値未満

※数値データの出典などについては、各成果指標の右下に示しています。

「アクションプラン」における「進捗状況」の記載について

各計画事業について、H30 末(中間)目標値に向けた H28 末の状況を示します。

区分	説明（計画事業の進捗状況基準）
順調	計画に対し、概ね計画通り進捗している。 「新規」「拡充」：各年度の目標事業量に対し、定量的に事業量を測れる事業は8割以上の進捗を目安とし、その他の事業は目標事業量からの遅延・乖離がないかを目安とする。 「継続」：H27 年度事業量（規模）と比較して、同等であることを目安とする。
達成	計画事業が計画期間の途中で終了するもの
遅れ	計画に対して事業進捗に遅れが出ている、「継続」で事業規模を縮小した。
休止	事業を休止し、次年度以降に再び実施する予定
中止	事業を中止し、今後も実施しない。

1 学習活動のきっかけの提供

1-1 生涯学習の普及啓発

施策の方針

- 市民が学びの楽しさ、大切さに興味・関心を持ってもらえるよう、様々な機会・手法を活用して情報を発信し、学習のきっかけづくりにつなげます。
- 国・県・大学等、市以外が提供する学ぶ場についても積極的に情報発信し、学習機会の拡大に努めます。
- 学習に関する各種相談を受け付けることで、スムーズな学びはじめ・学び直しをお手伝いします。

成果指標

生涯学習振興課

	指標	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (現状値)	達成 状況
1	生涯学習に関心のある市民の割合	76.9% (26 年度末)	83.0%	90.0%	80.5%	○
		WEB アンケート (現状値はインターネットモニターアンケート)				
2	生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合	56.4% (26 年度末)	60.0%	70.0%	19.3% ※	×
		WEB アンケート (現状値はインターネットモニターアンケート)				

※H28 末の WEB アンケートの設問内容を変更したため、数値が大きく変動している

(表の続き)

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
1	・「生涯学習に関心のある市民の割合」は、各種媒体による学ぶ場と学ぶための情報提供や、公民館・生涯学習センターの施設稼働率の向上、過去最高の入場者数を記録した「科学フェスタメインイベント」などの学習のきっかけづくりとなる生涯学習イベントの開催により、平成27年度末に比べて3.6ポイント上昇しました。	・各種事業の実施や、生涯学習に関する情報提供などにより、生涯学習に関心のある市民の割合が増えるよう努めます。
2	・「生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合」は、平成27年度末に比べて37.1ポイント下降していますが、アンケートの設問項目を直接的な表現に変えたため、一概に比較することができません。	・市民への生涯学習に関する情報の充実を図るため、引き続き、様々な機会・手法を活用して情報を発信していくとともに、効果的な情報発信について検討していきます。また、国や県、大学、専門学校等が実施する講座等について、情報の収集や提供をしていきます。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課等

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (実績)	進捗 状況
1	学ぶ場と学ぶための 情報提供の充実	SNS 等の活用、 市以外が実施す る講座情報の収 集・提供	実施	拡充	実施	拡充	順調
2	学習のきっかけづくり となる生涯学習イベ ントの開催	継続	継続	継続	継続	継続	順調
3	e ラーニングの普及 事業の実施	e ラーニング普及 事業の実施	検討	実施	継続	実施	順調

生涯学習振興課等

No.	主な成果と考察	今後の取り組み等
1	- 生涯学習センターにおいて、ホームページや市政だより等の広報紙の発行とともに、Twitter や平成 27 年度から開始した Facebook を原則毎週更新することにより、講座、イベント及び地域の情報等を広く発信するなど、様々な手法により市民に情報を得る機会を提供し、生涯学習の関心を高めることに寄与したと考えられます。 - 公民館では、市政だよりや公民館だより、チラシなどにより、学ぶための情報の提供に努めています。	SNS や公民館だよりなど様々な媒体によって情報を発信していきます。また、生涯学習センターや公民館において、市以外が実施する講座等についても、収集及び提供を行います。
2	「まなびフェスタ」や「千葉市科学フェスタ」、「公民館文化祭」などのイベントを通して、生涯学習の意義や学びの楽しさを伝えることができました。特に、科学フェスタメインイベントは、未就学児や中高生、大人など幅広い層への取り組みを実施し、平成 28 年度の来場者は 20,918 人と過去最高となりました。	生涯学習の普及啓発のため、「まなびフェスタ」や「千葉市科学フェスタ」、「公民館文化祭」といった生涯学習イベントを継続して開催します。
3	生涯学習センターにブラウジングカフェを新たに設置し、民間事業者（スクー）と連携したオンライン動画学習サービスを無料で体験することにより、最新の e ラーニングに触れる機会を提供し、市民の学習機会の拡大を図りました。	生涯学習の普及啓発のため、e ラーニングの普及事業などを継続して実施します。

1-2 学習環境の整備

施策の方針

- 学びに興味を持った市民が学習活動をはじめるとあって、快適で参加しやすい学習環境の確保に努めます。
- ICT 等の活用を通じた生涯学習施設の利用サービスの向上に努めます。
- 生涯学習施設等の保全・改修により、学習環境の維持・向上に努めます。

成果指標

生涯学習振興課

No.	指標	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (現状値)	達成 状況
3	市の生涯学習施設が 5 年前よりも利用しやすくなったと考える市民の割合	31.5% (26 年度末)	36.0%	40.0%	※1	—
生涯学習関係団体アンケート調査						
4	生涯学習施設を年 1 回以上利用したことのある市民の割合	44.1% (26 年度末)	50.0%	60.0%	※2	—
1 万人まちづくりアンケート						

※1 「生涯学習関係団体アンケート」は各目標年度に実施のため、平成 28 年度は未実施

※2 「1 万人まちづくりアンケート」は 3 年に 1 回の実施のため、平成 28 年度は未実施

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
3	※「生涯学習関係団体アンケート」は各目標年度に実施のため、平成 28 年度は未実施であり、達成状況を確認できません。	※引き続き、関連するアクションプランを推進します。
4	※「1 万人まちづくりアンケート」は 3 年に 1 回の実施のため、平成 28 年度は未実施であり、達成状況を確認できません。	※引き続き、関連するアクションプランを推進します。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課、中央図書館、こども企画課等

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (実績)	進捗 状況
1	生涯学習施設等の利用環境の充実	生涯学習センターの施設稼働率	51.5% (H26)	54.0%	55.0%	58.2%	順調
		公民館の施設稼働率 (* 調理室を除く)	45.2% (H26)	48.0%	50.0%	46.8%	順調
2	図書館サービスの向上	地区図書館の開館時間の拡大	—	1 館	1 館	—	遅れ
		分館における休日開館の実施	—	3 館	3 館	—	遅れ
3	子どもの居場所の確保	継続	継続	継続	継続	継続	順調
4	公民館の改築	檣橋公民館の改築	基本設計	H30 年 4 月 供用開始	供用	建設中 (H29 年 10 月供 用開始予定)	順調
5	公民館の改修	冷暖房設備改修	3 館 (H26)	1 館	4 館	1 館	順調
		屋上防水・屋根改修	3 館 (H26)	6 館	12 館	4 館	順調
		トイレ改修	1 館 (H26)	—	3 館	実施設計	順調
6	中央図書館・生涯学習センター等の改修	中央図書館・生涯学習センターの改修	中央監視装置更新 (H26)	アトリウム ガーデン屋根防水	工事完了済	実施設計	順調
				吊天井落下 防止対策	工事完了済	実施設計	順調
		南部青少年センター・みやこ図書館白旗分館 受水槽更新工事	—	実施設計、 工事	工事完了済	—	休止
7	コミュニティセンターの改修	外壁・屋上防水改修	工事 2 館 (H26)	—	中間見直し 時に設定	—	順調
		空調・熱源改修	実施設計 1 館 (H26) 工事 1 館 (H26)	工事 1 館	中間見直し 時に設定	工事 1 館	順調
		劣化度調査	—	2 館	中間見直し 時に設定	2 館	順調

(表の続き)

生涯学習振興課、中央図書館、こども企画課等

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	- 生涯学習センターでは、稼働率の低い AV 調整室を幅広い用途に使用可能な多目的室に改良するなど、利用促進を図ったことにより、施設稼働率が平成 28 年度末で 58.2%と、平成 26 年度末に比べて 6.7 ポイント上昇しました。 - 公民館では、地域団体等の利用が増えたため、施設稼働率が 46.8%と平成 26 年度末に比べて 1.6 ポイント上昇しました。 - 南部青少年センターやコミュニティセンター等においても、施設稼働率を向上させるため、利用環境の充実を図っています。	快適で参加しやすい学習環境の場の確保に努め、多くの市民に利用していただけるよう、施設稼働率の向上に努めます。
2	地区図書館の開館時間の拡大と分館における休日開館の実施を計画しておりましたが、インターネットの普及を受け、図書の貸出・返却に関して時間・場所の制約がない電子書籍の導入について検討しています。	図書館サービスの向上については、開館時間の拡大及び分館における休日開館の実施と、電子書籍の導入について、費用対効果の面から検証します。
3	土曜ひろばなどの公民館での講座、公民館の一部諸室の自習室としての開放、さまざまな主体が連携しながら運営することもカフェ、自然の中で自由に遊ぶことができるよう整備されたプレーパークなどの事業により、安全で安心して活動できる子どもたちの居場所を確保することができました。	「プレーパーク」や「土曜ひろば」といった子どもの居場所を確保する事業などを継続して実施します。
4	犢橋公民館の改築については、発注業務や開館準備作業を早めたことや、工事が順調に進んだことから、平成 29 年 10 月に前倒しして供用開始する予定となりました。	犢橋公民館の改築については、平成 29 年 10 月の供用開始に向けて、準備を進めていきます。
5	公民館の改修については、建築部・資産経営部との連携により、中長期保全計画に基づく改修を実施しました。	建築部・資産経営部と連携しながら、必要な改修や修繕を行っていきます。
6	- 中央図書館・生涯学習センターの改修については、建築部・資産経営部との連携により、中長期保全計画に基づく改修を実施しました。 - 南部青少年センター・みやこ図書館白旗分館の受水槽更新工事については、緊急性が低いとの判断から、改修の実施が先送りとなりました。	建築部・資産経営部と連携しながら、必要な改修や修繕を行っていきます。
7	各コミュニティセンターの改修については、建築部・資産経営部との連携により、中長期保全計画に基づく改修を実施しました。	建築部・資産経営部と連携しながら、計画的な改修を行っていきます。

2 多様な学習機会の確保

2-1 郷土への愛着を深める学習機会の提供

施策の方針

- 郷土に対する理解と愛着を深めるため、地域の歴史や文化資源を生かした学習機会を提供します。
- 郷土の伝統・文化を適切な保護・保存方法により後世に引き継ぐとともに、ふるさと意識の醸成を図ります。

成果指標

文化財課

No.	指標	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (現状値)	達成 状況
5	郷土の歴史や文化財に愛着を感じる市民の割合	38.3% (26 年度末)	47.5%	50.0%	※	—
1 万人まちづくりアンケート						

※「1 万人まちづくりアンケート」は 3 年に 1 回の実施のため、平成 28 年度は未実施

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
5	※「1 万人まちづくりアンケート」は 3 年に 1 回の実施のため、平成 28 年度は未実施であり、達成状況を確認できません。	※引き続き、関連するアクションプランを推進します。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課、文化財課

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (実績)	進捗 状況
1	加曽利貝塚の国特別 史跡指定	総括報告書の刊 行	総括報告書 の作成	総括報告書 の刊行	総括報告書 の刊行	総括報告書 の刊行	順調
2	文化財の保存・活用 の推進	ゆかりの家・いな げの改修	—	外壁等腐食 箇所修繕、 電気設備工 事	外壁等腐食 箇所修繕、 電気設備工 事完了	—	休止
		旧検見川無線送 信所の修繕	屋上防水実 施設計	屋上防水及 び外壁補修 工事	屋上防水及 び外壁補修 工事完了	屋上防水改 修工事完了	遅れ
		市民ギャラリー・ いなげ(旧神谷 伝兵衛稲毛別 荘)の改修	基本設計	耐震改修、 屋根防水改 修工事	耐震改修、 屋根防水改 修工事完了	実施設計	順調
3	郷土の理解を深める 講座・事業の充実	加曽利貝塚など 縄文時代の理解 を深める講座・事 業	11 事業	13 事業	13 事業	11 事業	順調
		千葉氏など郷土 の歴史の理解を 深める講座・事 業	24 事業	26 事業	26 事業	26 事業	順調

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	・加曽利貝塚の国特別史跡指定については、指定に向けた取組みとして、今までの発掘調査の成果をとりまとめた「史跡加曽利貝塚総括報告書」を平成 29 年 3 月に刊行し、史跡の価値を示す貴重な資料となっています	・加曽利貝塚の特別史跡指定に向け、来館者のニーズに合わせた事業の拡充を図っていきます。また、今回の報告で分からなかった内容を、発掘調査や研究で解明していきます。(平成 29 年 6 月 16 日答申。正式な指定は 10 月ごろ)
2	・ゆかりの家・いなげは、当初予定していた外壁等腐食箇所修繕や電気設備工事といった改修工事の緊急性が低く、先送りとなりました。 ・旧検見川無線送信所は、平成 25 年度の文化財調査において緊急に修繕すべきとされた屋上の防水改修工事が完了し、雨漏りによる躯体のこれ以上の劣化を防ぐことができましたが、外壁補修工事については、外壁の劣化を防ぐため、補修箇所や方法等が見直しとなりました。 ・市民ギャラリー・いなげは、実施設計が完了しました。	・ゆかりの家・いなげは、地域有形文化財としての価値を損なうことがないよう、緊急性を考慮しながら適切な補修を行っていきます。 ・旧検見川無線送信所は外壁の劣化を防ぐべく、補修箇所や方法等を見直す必要が生じたため、改めて検討していきます。 ・市民ギャラリー・いなげは、建築部・資産経営部と連携しながら、計画的な改修を行っていきます。
3	・加曽利貝塚など縄文時代の理解を深める講座・事業は、イベントでの物販、スタンプラリーや石器の実演・体験等のメニューなど新たな取組みを行いました。出張展示での反応も良く、来館者は増加傾向にあります。 ・千葉氏など郷土の歴史の理解を深める講座・事業は、千葉開府 890 年ということもあり、関心が高く、出前授業だけでも約 4,700 人が参加するなど、常設展や講座参加者を含めると年々増える傾向にあります。	・加曽利貝塚の特別史跡指定に向け、来館者のニーズに合わせた事業の拡充を図ります。 ・千葉氏など郷土の歴史の理解を深める事業として、平成 29 年度は鎌倉騎馬武者体験を実施します。

2-2 市民ニーズに対応した学習機会の提供

施策の方針

- 急速に変化・多様化する現代社会において、多岐にわたる市民の学習ニーズに対応するため、幅広い分野にわたる学習機会を提供します。
- 科学・技術に関する講座・事業を通して、市民のライフスタイルに科学が溶け込む環境づくりを進めます。
- 様々な立場の市民が、生涯を通じて必要な知識・技能を身に付けられるよう、学び直しを支援します。
- 子どもから子育て世代、お年寄りまで、様々な世代のライフステージ*に応じた学習機会を提供します。

成果指標

生涯学習振興課

No.	指標	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (現状値)	達成 状況
6	公民館の講座の参加者の満足度	98.2%	99.0%	99.5%	98.5%	△
		受講者アンケート調査				
7	「科学都市ちば」の認知度	38.6%	43.0%	50.0%	55.6%	◎
		WEB アンケート (現状値はインターネットモニターアンケート)				

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
6	・「公民館の講座の参加者の満足度」については、市民の学習ニーズに対応するため、幅広い分野にわたる学習機会の提供を行い、平成 28 年度末は 27 年度末に比べて 0.3 ポイント上昇しましたが、伸び悩んでいます。	・市民のニーズを的確に把握することなどにより、公民館の講座の参加者の満足度の上昇を目指していきます。
7	・『科学都市ちば』の認知度については、科学館の入館者数が 417,499 人と過去最高であったことや、千葉市科学フェスタメインイベントの参加者数が 20,918 人と過去最高であったことにより、「科学都市ちば」の認知度が上がっていると考えられます。特に、アンケートの結果によると、千葉市科学フェスタメインイベントの来場者の約 61%が初めてイベントに参加したとなっており、科学都市ちばの認知度の向上に寄与しました。	・千葉市科学フェスタメインイベントの充実や、年間を通して各公民館等で開催されるサテライトイベントの充実、科学館事業の充実などにより、「科学都市ちば」の認知度をさらに上げていきます。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課、文化財課、中央図書館、スポーツ振興課、高齢福祉課等

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (実績)	進捗 状況
1	現代的課題学習事業の実施	継続	継続	継続	継続	継続	順調
2	文化・芸術学習事業の実施	継続	継続	継続	継続	継続	順調
3	スポーツ・レクリエーション推進事業の実施	継続	継続	継続	継続	継続	順調
4	「(仮称)瑞穂情報図書センター」の整備	「(仮称)瑞穂情報図書センター」の整備	検討	H29 年 3 月 供用開始	供用	H29 年 3 月 28 日供用 開始	達成
5	科学関連学習事業の実施	継続	継続	継続	継続	継続	順調
6	未来の科学者育成プログラムの充実	ジュニア講座の充実	実施	拡充	拡充	拡充	順調
7	キャリア教育の推進	キャリア教育の推進	検討	実施	実施	実施	順調
8	放課後子ども教室の推進	実施日数	21.2 日/校 (H26)	30.0 日/校	前半 3 ヶ年の取組状況を踏まえ、見直し時に設定	19.8 日/校	遅れ
9	子ども読書活動の推進	読書習慣のある児童生徒の割合 (小学 5 年生)	45.2% (H26)	49.0%	52.5%	46.0%	遅れ
		読書習慣のある児童生徒の割合 (中学 2 年生)	46.9% (H26)	49.0%	52.5%	44.4%	遅れ
		1 か月間に読んだ本が 0 冊の児童生徒の割合 (小学生)	1.1% (H26)	0.9%	0.8%	0.6%	順調

		1 か月間に読んだ本が 0 冊の児童生徒の割合 (中学生)	7.9% (H26)	6.4%	5.5%	2.8%	順調
10	青少年教育・少年教育事業の実施	継続	継続	継続	継続	継続	順調
11	家庭教育支援事業の実施	「子育てママのおしゃべりタイム」の実施館数	21 館 (H26)	28 館	28 館	22 館	遅れ
12	高齢化社会に対応した学習機会の提供	生きがいづくり・仲間づくり、健康・福祉に関する講座の開催	実施	拡充	拡充	実施	順調

(表の続き) 生涯学習振興課、文化財課、中央図書館、スポーツ振興課、高齢福祉課等

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	・公民館では、情報（ICT）・防災・環境・健康・消費生活・歴史・国際交流などの多岐に渡る現代的な課題に関する講座を実施し、社会の中で自立して、生涯にわたって生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身に付けた人材の育成に努めました。 ・生涯学習センターでは、社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むため、平成 32 年東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えたスポーツ関連事業を実施するなど、時代に沿ったテーマを取り入れています。 ・図書館では、地域の歴史等、市民に身近な話題や生活に役立つ様々な分野の講座を開催し、受講者アンケートで概ね高い評価を得ています。	・市民ニーズに対応した学習機会を提供するため、公民館や生涯学習センター、図書館等での現代的課題学習事業を継続して実施します。
2	・市民が主体となるような事業や、子ども・若者が文化芸術に親しむことのできる事業を実施しました。また、平成 32 年東京オリンピック・パラリンピックを見据えた、車椅子アートプロジェクト等の文化芸術イベントなどを実施し、個性豊かな新しい千葉文化の創造に努めました。	・車椅子アートプロジェクトなどの文化・芸術学習事業の取組みを継続して実施します。
3	・トップスポーツチームによる学校訪問を 17 校実施するなど、重点事業であるトップスポーツ連携を行い、各種スポーツ施策に取り組みました。	・スポーツ推進計画に基づくスポーツ・レクリエーション推進事業を継続して実施します。
4	・「(仮称) 瑞穂情報図書センター（現：みずほハスの花図書館）」は、寛ぎながら読書を楽しめるスペースの設置に加え、自動貸出機、タブレット端末及びデジタルサイネージ等の I C T 機器を活用したサービスの導入など、新たな取組を行う図書館として、花見川区役所 1 階に整備を進め、平成 2 9 年 3 月に供用を開始しました。	・みずほハスの花図書館で導入した、さまざまな先進的な取組について効果の検証を実施します。
5	・公民館では、科学フェスタサテライトイベントとして、科学館や東京ガス等と連携した科学関連学習講座を平成 28 年度に 69 講座実施し、子どもたちを中心に、科学・技術に親しみを感じさせることができました。 ・生涯学習センターでは、地球環境の保全など、科学関連学習への市民ニーズに応えた講座を平成 28 年度に 2 講座実施しました。	・公民館や生涯学習センター、科学館などで、科学都市戦略事業方針に基づき、科学関連学習講座を継続して実施します。

	科学館では、館内での講座や企画展のほか、館外でのワークショップなどのアウトリーチ活動、公民館や放課後子ども教室への講師の派遣などにより、日常に科学が浸透する取り組みを実施しました。	
6	未来の科学者育成プログラムジュニア講座の回数を、2回から3回に拡充することにより、より多くの児童が受講することができ、未来の科学者育成という目的に対し、裾野を広げることができました。	児童・生徒のニーズに沿った講座を準備し、受講生が未来の科学者への素地を高めることができるようにしていきます。
7	- 生涯学習センターでは、50代からのライフ・プランニング講座や、女性のための就活支援セミナーなど、幅広い世代を対象とした事業を生涯学習センターで実施し、個人生活の向上につながりました。また、eラーニングとして、民間事業者（スクー）と連携したオンライン動画学習サービスにより、学び直し・キャリアアップに寄与する学習機会を提供できました。 - 学校教育分野におけるキャリア教育については、P27 参照。	- 引き続き、学び直し・キャリアアップに寄与する学習機会を提供し、個人生活の向上と共に、市民生活や地域産業経済を支える人材の育成を行います。 - 学校教育分野におけるキャリア教育については、P21 参照。
8	放課後子ども教室のモデル校の10校では、総合コーディネーターの活動支援により、プログラムの増加とともに実施日数の増加が見られたものの、市全体ではプログラムの企画や活動の見守りなど地域の負担が大きいなどの理由で、1校あたりの実施日数は19.8日と減少しています。	平成29年度から開始する子どもルームとの一体型事業の検証を行うとともに、総合コーディネーターによる活動支援方策を検討し、全ての子どもに安全・安心に過ごせる居場所と「学びのきっかけ」の提供を目指します。
9	子どもが自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができるような環境整備や適切な支援を行いました。また、子どもが読書で感じたことを記録することで本を読むきっかけを作る「まほうの読書ノート」の配布や、学校等での読書活動の推進により、「1か月間に読んだ本が0冊の児童生徒の割合」の目標値を達成しましたが、「読書習慣のある児童生徒の割合」の上昇には、効果が表れるまで時間がかかると思われます。	「ファミリーブックタイム事例集」の発行・配布や、「まほうの読書ノート」の配布、子ども読書まつりの開催など、引き続き、子ども読書活動の推進を実施します。
10	- 生涯学習センターでは、子どもの社会性やコミュニケーション能力、感性などを育む講座を平成28年度に19講座実施し、未来を担う子供たちの育成を支援しました。 - 公民館や南部青少年センターにおいて、学校では体験できない体験学習等の講座で、子どもたちが同じ体験を共有することにより、身体と心の健康増進や、社会的適応能力を高める効果がありました。また、青少年団体・少年団体等に施設の貸し出しを実施しています。	地域の特性・地域住民のニーズ等を収集・把握しつつ、学校では体験できない体験学習・工作等の学習講座の実施や、青少年団体・少年団体等への施設の貸し出しを継続して実施します。

11	・家庭教育の支援や子育ての不安や悩みを解消するため、「子育てママのおしゃべりタイム」を公民館で実施しました。しかしながら、高齢化や共働き世帯の増加に伴う地域活動への参加者の減少などの理由から子育てサポーターの確保が難しく、実施回数や実施場所の拡大を進めることが難しい状況です。	・人材の確保等、実施体制の強化を図りながら、地域の子育て世代のニーズに応じた実施場所について検討・拡充していきます。
12	・高齢化社会の進行に伴う需要増大に対し、認知症予防やシニア向けスマートフォンの使い方などの講座を、公民館や生涯学習センター、いきいきプラザ、いきいきセンター等で実施し、講座の充実に努めています。	・引き続き、高齢者が生きがいある生活を送れるよう、公民館や生涯学習センター、いきいきプラザ、いきいきセンター等で、生きがいづくり・仲間づくり、健康・福祉に関する講座などを実施します。

3 学びを生かしたコミュニティづくり

3-1 地域の担い手となる人材育成

施策の方針

- 地域における学習活動の活発化を図るため、専門的知識を持つリーダーをはじめ、地域・団体活動のリーダー、ボランティア等の人材を育成します。
- 講座などの学習活動をきっかけとして仲間づくり、絆づくりを進め、学習活動の担い手の育成につなげます。

成果指標

生涯学習振興課

No.	指標	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (現状値)	達成 状況
8	市民のボランティア活動・地域活動への参加状況	16.4% (26 年度末)	23.0%	30.0%	21.9%	○
WEB アンケート (現状値はインターネットモニターアンケート)						

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
8	・「市民のボランティア活動・地域活動への参加状況」については、ボランティア・地域リーダー等の育成や、ちば生涯学習ボランティアセンターにおけるコーディネート件数の増加などが、徐々に参加状況の増につながっていると思われます。	・地域における学習活動の活発化を図るため、引き続き、団体・グループ活動のリーダーの養成・育成や、ボランティアの育成などを実施します。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課、高齢福祉課等

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (実績)	進捗 状況
1	団体・グループ活動 のリーダーの養成・ 育成	指導者養成研修 * 延受講者数	333 人 (H26)	370 人	400 人	389 人	順調
2	ボランティアの育成	ちば生涯学習ボ ランティアセンタ ー登録者数	1,634 人 (H26)	1,850 人	2,000 人	1,635 人	遅れ
3	家庭教育支援事業の 実施(一部再掲)	家庭教育支援チ ーム数	2 チーム (H26)	4 チーム	4 チーム	2 チーム	遅れ
		子育てサポータ ー人数	33 人 (H26)	42 人	42 人	36 人	遅れ
4	高齢化社会に対応し た学習機会の提供 (一部再掲)	健康・福祉・介護 予防等に有用な 実践的講座の開 催	実施	拡充	拡充	実施	順調

生涯学習振興課、高齢福祉課等

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	生涯学習センターにおける団体・グループ活動のリーダーの養成・育成では、定員を超える応募のあった PTA 役員研修会や、地域コーディネーター研修について、受講できる人数を増やすことにより、より多くの指導者を養成することができました。	地域の担い手となる人材を育成するため、団体・グループ活動のリーダーの養成・育成を継続して実施します。
2	- ちば生涯学習ボランティアセンターの登録者数は、ボランティアを紹介するイベントである「ボランティアフェア」や、ボランティアデータベースへの情報提供などにより、ボランティア人数を増やす取組みを行っていますが、高齢を理由にボランティアを引退する団体もあるため、現状、ボランティア登録者数の増加には至っていない状況です。 - 生涯学習センター、科学館、加曽利貝塚博物館、郷土博物館、中央図書館では、施設の企画・運営等に協力する施設ボランティアを、研修等により育成しています。	引き続き、ボランティアを紹介するイベントの実施や、ボランティアコーディネート件数を増やすことで、ボランティアの活動機会を増やし、ボランティアセンター登録者数の増加に努めます。
3	家庭教育支援事業の実施については、子育ての悩みなどを相談できる場所として認知されてきており、今後も継続的な需要が見込めます。また、家庭教育支援チームは、地域団体（育成委員会や PTA など）と共催で行う学習講座なども行っており、地域とのつながりも深まりつつあります。なお、家庭教育支援チームについては、既存の 2 チームについて、臨床心理士や保育士などで構成されることから新規の協力者の確保が難しく、チーム数を増やすことは困難な状況です。また、公民館で実施している「子育てママのおしゃべりタイム」の担い手である子育てサポーターも、高齢化や共働き世帯の増加に伴う地域活動への参加者の減少などの理由から新たな人材の確保が困難な状況です。	家庭教育支援事業の実施は、人材の確保について、引き続き、公民館や学校の協力を得て、子育てサポーターや青少年育成委員等の既存の家庭教育関連団体に適切な人材の紹介を呼びかけるとともに、チームが開催するイベント等についてもより一層の広報 PR に努め、参加者を含めより幅広く参画を働きかけていきます。
4	社会福祉協議会や社会福祉事業団等と連携し、公民館や生涯学習センター、いきいきプラザ、いきいきセンター等で、高齢化社会に対応した講座を平成 28 年度に 227 講座実施し、健康増進や生きがいのある生活を送ることができるよう支援しました。	引き続き、公民館や生涯学習センター、いきいきプラザ、いきいきセンター等で、高齢者の健康増進や生きがいのある生活を送ることができるよう支援していきます。

3-2 学習成果の活用機会の提供

施策の方針

- 学習の成果を社会・地域に還元できるよう、様々な活用方法や機会を提供します。
- ボランティア等が市民の学習ニーズに合わせて活躍できるよう、支援が必要な者とのマッチングや活動紹介等の機会を確保します。
- ボランティア等が自ら積極的に活動・情報発信できるよう、拠点となる場所を確保します。

成果指標

生涯学習振興課

No.	指標	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (現状値)	達成 状況
9	年 2 回以上学習成果を地域 に還元する団体の割合	43.7% (26 年度末)	47.0%	50.0%	※	—
生涯学習関係団体アンケート調査						

※1「生涯学習関係団体アンケート」は各目標年度に実施のため、平成 28 年度は未実施

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
9	※「生涯学習関係団体アンケート」は各目標年度に実施のため、平成 28 年度は未実施であり、達成状況を確認できません。	※引き続き、関連するアクションプランを推進します。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課、中央図書館等

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (実績)	進捗 状況
1	市民自主企画講座や 施設ボランティアによ る学習機会の提供	継続	継続	継続	継続	継続	順調
2	学習成果の発表機 会の提供	継続	継続	継続	継続	継続	順調
3	青少年交流事業の実 施	継続	継続	継続	継続	継続	順調
4	ボランティアセンター 等におけるコーディネ ートの実施	ちば生涯学習ボ ランティアセンタ ーにおけるコー ディネート	198 件 (H26)	230 件	260 件	231 件	順調
5	生涯学習ボランティ アの活動場所の提供	生涯学習センタ ー内にボランティ ア活動スペース を提供	検討	実施	実施	実施	順調

(表の続き)

生涯学習振興課、中央図書館等

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	- 生涯学習センターや科学館では、さまざまな技能を持った市民自身が学習プログラムを企画する市民自主企画講座・ボランティアによる企画講座を継続して実施し、市民が学習成果を還元する機会の確保に努めました。 - 郷土博物館や加曽利貝塚博物館等では、ボランティアによる展示解説や案内を、図書館では、ボランティアによる育児サークル・4 か月児健診・学校等での読み聞かせ等を実施し、ボランティアが自らの知識や技術を還元する機会を提供しました。	市民自主企画講座や、ボランティアによる展示解説・案内・読み聞かせを継続して実施します。
2	生涯学習センターでは、まなびフェスタやボランティアフェアなどを、公民館では、サークル・クラブ等の協議会等が主催する「公民館文化祭」などの学習成果の発表の場を提供することで、学習への意欲をより高め、生涯学習によるコミュニティづくりに寄与しました。	学習成果の活用機会を提供するため、まなびフェスタやボランティアフェアなど、学習成果の発表機会などを継続して実施します。
3	- 生涯学習センターで開催している子どもチャレンジ教室や、南部青少年センターで開催しているゆめチャレンジなどを実施することにより、子どもの社会性やコミュニケーション能力を育む効果がありました。 - 公民館や南部青少年センターにおいて、青少年団体へ施設を貸し出すことにより、青少年の自主的な活動を促すことができました。	子どもチャレンジ教室やゆめチャレンジ等の青少年交流事業や、青少年団体等への施設の貸し出しを継続して実施します。
4	- ちば生涯学習ボランティアセンターにおけるコーディネートの実施については、指導者や協力者が身近に見つからないという方と、ボランティアとして自身の知識・経験を地域社会に役立てたいという方の橋渡しを積極的に行うことで、コーディネート件数が平成 27 年度に比べて 33 件増加し、生涯学習ボランティア活動が活性化されました。 - 千葉県ボランティアセンター・千葉県国際交流協会では、登録ボランティアとのコーディネートを、千葉市民活動支援センターでは、ボランティア情報の提供等を実施しています。	引き続き、支援が必要な者とボランティアのマッチングをするため、ボランティアセンターにおけるコーディネートを積極的に行います。

5	・生涯学習センター内に「ボランティア活動スペース」を設置し、ボランティアセンター新規登録者や未活動登録者によるミニ講座を実施することで、ボランティア活動のPRの機会となり、ボランティアセンターへのコーディネート実施件数が平成27年度に比べて33件増加したことに貢献しました。また、ボランティア登録者のスキルアップにもつながりました。	・引き続き、ボランティア等が自ら積極的に活動・情報発信できるよう、ボランティア活動スペースなどの拠点となる場所を提供します。
---	--	--

3-3 市民の参加・協働による学習活動の推進

施策の方針

- 地域が自主的に取り組む学習活動を支援し、地域課題を自ら解決するコミュニティづくりを目指します。
- 団体活動の後援及び情報発信の支援等を行います。
- 地域で活動する団体相互の連携を支援します。

成果指標

生涯学習振興課

No.	指標	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (現状値)	達成 状況
10	住民同士で地域課題の解決に取り組んでいると考える市民の割合	24.3% (26 年度末)	27.0%	30.0%	※	—
1 万人まちづくりアンケート						

※「1 万人まちづくりアンケート」は 3 年に 1 回の実施のため、平成 28 年度は未実施

No.	達成状況に対する説明	今後の取組み等
10	※「1 万人まちづくりアンケート」は 3 年に 1 回の実施のため、平成 28 年度は未実施であり、達成状況を確認できません。	※引き続き、関連するアクションプランを推進します。

アクションプランの進捗

生涯学習振興課、学事課、健全育成課等

No.	事業名	新規・拡充項目 継続	H27 末 (現状値)	H30 末 (中間目標)	H33 末 (最終目標)	H28 末 (実績)	進捗 状況
1	多様な主体による学習活動の推進	公民館、生涯学習センターにおいて多様な主体と連携して実施した事業数	103 事業 (H26)	115 事業	120 事業	114 事業	順調
2	公民館を拠点とした地域連携の推進	公民館の利用を促し、地域住民のつながりを深める	検討	実施	実施	実施	順調
3	地域交流・多世代交流事業の実施	継続	継続	継続	継続	継続	順調
4	学校支援地域本部やコミュニティスクール等の推進	連携組織の設置	学校支援地域本部 小：2 校 中：1 校	学校支援地域本部を含めた連携組織を小中高の三割に設置	学校支援地域本部を含めた連携組織を全小中高に設置	学校支援地域本部 小：4 校 中：2 校	順調
5	健全育成活動の推進	継続	継続	継続	継続	継続	順調
6	特別教室等の開放	継続	継続	継続	継続	継続	順調
7	社会教育関係団体の育成	継続	継続	継続	継続	継続	順調

(表の続き)

生涯学習振興課、学事課、健全育成課等

No.	主な成果と考察	今後の取組み等
1	生涯学習センター、公民館などにおいて、NPO 法人や高等教育機関、社会教育関係団体等の多様な主体と連携した講座を実施し、それぞれの専門性を生かすことにより、さまざまな分野の高度な内容の学習活動を行うことができました。	NPO 法人や高等教育機関、社会教育関係団体等の多様な主体と連携し、協働による学習活動を推進していきます。
2	公民館を拠点とした地域連携の推進は、平成 27 年度で地域連携を検討し、平成 28 年度において、緑が丘公民館で 4 事業、打瀬公民館で 1 事業を実施することができ、地域住民のつながりに寄与しました。	引き続き、公民館を拠点とした地域連携として、地域住民と連携した講座を推進していきます。
3	公民館において、吹奏楽コンサートなどの地域交流事業や、凧揚げ大会などの伝承遊び講座を継続して実施し、地域住民の交流や異なる世代間の交流を支援しました。	地域交流事業や伝承遊び講座等の多世代交流事業を継続して実施します。
4	※学校教育分野で記載 (P59 参照)	※学校教育分野で記載 (P59 参照)
5	市が委嘱した青少年育成委員が、地域の危険箇所の点検、レクリエーションやスポーツ活動、研修会、環境浄化活動や補導点検、あいさつ運動、地区の環境整備活動等を行い、地域の青少年の健全育成を図りました。特に、「青少年の日」及び「家庭・地域の日」を中心とした時期に活動を集中して実施しました。また、青少年育成委員会では、児童・生徒をとりまく危険性などをテーマとした研修を、ブロックごとに実施しました。	情報ツールの急速な普及や人間関係の希薄化等、青少年を取り巻く環境が年々大きく変化し、青少年が関わる事件・事故が多発している中、地域の中核となって青少年の健全育成に大きく寄与している青少年育成委員会活動への支援を継続していくとともに、より一層の活性化を促していきます。
6	特別教室等の解放については、継続して事業を実施し、団体活動や団体相互の連携を支援しました。利用人数は平成 27 年度比で約 13%増加したものの、利用可能時間は限られており、利用団体の意向を充足しているとは言い難い状態です。	特別教室等の開放については、学校施設開放に順次移行します。また、利用が少ない星久喜小学校では事業を休止します。
7	公民館等で社会教育関係団体向けの研修を継続して実施し、団体活動や団体相互の連携を支援しました。	社会教育関係団体向けの研修などの事業を継続して実施します。